

大野市



市制20周年

74.7.1

特集

大野の空は

🕒 などで かくも青く

大野の川は

などで かくも清く

大野の山野は

などで かくも緑に

ああ透明な風が吹く

道行く人々のほほえみ

見おろせば

平和の町

はほたく町

歴史ふるき町

人呼んで

小京都

当市は昭和29年7月1日、旧大野町など2町6か村を合併、田園都市として誕生してから今年で満20年を迎えました。

まことにご同慶に堪えませぬ。顧みますに、この市政20年は決してバラ色の道だつたとはいえません。昭和34年の伊勢湾台風、38年の豪雪、40年の風水害等度重なる大災害に見舞われ、あるいは財政再建など苦難の連続ではございましたが、先輩各位のご協力とたくましい市民性により、みごとにこの試練を乗り越え、学校建設、道路整備、環境衛生施設の整備、秩序ある市街地づくりと農業の近代化など都市基盤を整えてまいりました。これひとえに市民並びに関係各位のご理解とご協力の賜ものと深く感謝の意を表する次第であります。

この20周年を契機として、豊かな自然を生かし益地性を克服して広域的行政の推進を図るとともに、愛着と誇りと生きがいをもって暮らせる、明るい豊かな文化・産業都市の建設を目指し、公正・清潔をモットーとした行政を運営して参りたいと存じます。

市民各位の一層のご協力をお願いして止みません

大野市長 寺島利鏡



すやかな成長が、保育園で



はたちのすがお

大野市の人口は6月1日現在で42,529人です。過去10年間は、ほとんど増減がありません。

面積は541.66平方キロメートルで、広さでは全国で21番目に大きな市です。

苦しかった財政再建も昭和47年度に明けて、48年度からは「緑豊かなまち、文化の香り高い都市づくり」を目指して、いろいろな事業を進めています。

最重要施策は市民福祉の充実で、お年寄りやゼロ歳児の医療費の無料化、保育園、家庭奉仕員の充実などがあげられます。

教育面では、統合中学校整備の最終段階を迎え、開成中学校の建設を進めています。また児童用のスクール製更新完了、青年の海外派遣や社会教育各種学級の充実、さらに市民のスポーツ・レクリエーション活動の組織づくりがあげられます。

産業面では、中小企業振興条例を制定して企業の体質改善を図る



山の生かす、完成した黒谷河内林道



市の発展は道路から、舗装工事



近代化する水田、土地基盤整備事業



緑と光と空間と 北部土地区画整備事業



昭和29年7月、2町6か村
が大団団結して大野市制施行
以来20年の歳月は、政治、経
済、文化の各般にわたって変
転窮まりない日々でありまし
た。

顧みれば、伊勢湾台風、第
2室戸台風、北美濃地震、38豪雪、40.9風水害など重
なる天災の試練と、財政再建という厳しい条件のな
かて、市民の皆様が明るく住みよい文化的な生活が
できるよう、教育文化施設、保健衛生施設、あるいは
道路の整備、産業構造の改善、都市計画等近代的
都市形成のための諸施策が次々進められ、今日の発
展をみました。これはひとえに、市民の皆様のご深い
ご理解と、関係各位のご協力のたまものと深く敬意
と感謝の意を表するものであります。

時代のすう勢は広域行政としての清掃処理、ある
いは公害関係、水資源対策など重要問題が山積され
ておりますが、これらの問題と積極的に取り組み、
これを契機として、さらに市勢の伸展を期する所存
でございます。

今後とも市民の皆様の一層のご協力をお願いいた
しまして、お祝いのことばいたします。

大野市議会議長 米村喜六

わたしの大野市

一方、公害を出さない工場づくりを助めています。

農業では、土地基盤整備事業が進み、本年度は最盛期を迎えまし
た。また、里芋、ニンジン、イチゴ等の特産品づくりも活発です。

451.2平方kmの山林では、林道を建設して自然と調和した開発
を進めています。

生活環境面では、道路の改良舗装があげられ、今年からは農村部
に重点をおいて工事をします。

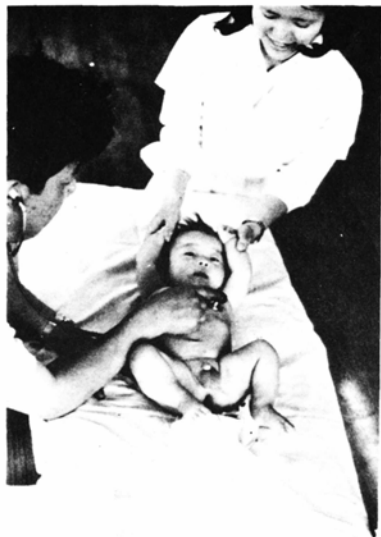
市街地では土地区画整理事業が進み、「北部土地区画整理地区」は
明るい住宅地の装いが整ってきました。

また、懸案であった処理能力拡充のためのゴミ焼却場の建設も、
域行政事務組合で着々と計画が進められています。

公害のない、美しい住みよいまちづくりを目指すため、4月には
環境保全条例も制定され、青年都市として躍進する基礎固めがで
きました。



教育はよい環境で 開成中学校建設工事



元気に大きくなーれ 乳幼児検診

大野市のビジョンを語る

商工業の開発センターを

大野人は食わず嫌い

司会 大野市は今年でちょうど市制20周年を迎えました。

そこで、日ごろは各分野で活躍されている方々にお集まりいただき、「大野市のビジョン」を大いに語っていただきたいと思ひます。

まず、現状についてのご意見をどうぞ。

松田 私は菊づくりをしています。仲間て組合を作り、年間100万本を出荷しています。始めた当時は反対もあり本当に苦しかったけれども、今は土地の利を生かし、また将来性の点からもよかったですと思ひます。

宇野 どの産業でもそうですが、特に商工業では、大野市にいて世界の情勢を見ていないと生きていけないことを痛感しています。

また、これからはもっともって企業や商店の体質改善が必要で、隣人との協調、協業へのシステム化を図らなければならないと思ひます。

高山 若者としては、スポーツ施設がないのはさみしいですね。また、青年は小さく固まらず、もっと大きな場て交流したいものです。

市長 20年の歴史は市の基礎づくりでした。どんな花が咲くか、どんな花を咲かせるかはこれからですが、今お話があったように「世界の中の大野」



という大きい花でなければならぬことは、間違いないでしょう。

坂田 「世界の中の大野」という気迫は幕末の大野藩にもありました。カラフト開拓をしたあの進取の気象は、大野人の誇りですね。

藤井 たしかに誇りです。現代の青年は心の励みしなければなりません。しかし、現状を打破する力になるには、プラス具体的なものが必要だと思います。

それは外に学ぶ姿勢から生まれると思ひますが、どう



も大野の土じょうの中にスッポリと入ったままの人が多いような気がします

宇野 文化活動の面だけを考えましてもそのとおりですね。食わず嫌いというか、エンジョイする意欲に欠けている。

文化講演会でも出席する人はいつも決まっていますね。

藤井 このように、これからは心の問題が一番大切な時代ではないかと思ひます。富山県では精神開発局をつくったと聞きました。大野市では社会教育でしようが、現状では手薄ではないでしようか。

20周年を契機に行政面で大きく取り上げてほしいものです。

市長 「自分たちのまちは自分たちの手て」が自治の基本で、その意味から今大野市では新しいまちづくり運動が進められていますが、官製のまちづくりはだめで、行政は運動を援助するサービス機関だと考えています。

宇野 物事を進める場合、餅屋は餅屋という考え方はだめになりましたね

医学では専門ごとに深く究め、それを有機的に結合して、はじめて難病の克服ができるのだと聞いています。まち

出席のみなさん

- 宇野賢治さん (40歳、明倫町、会社役員) ……商工業関係
- 坂田玉子さん (51歳、本町、商業) ……教育文化関係
- 高山敏幸さん (22歳、春日3丁目、会社員) ……働きながら学ぶ青年
- 藤井道明さん (31歳、錦町、保育園園長) ……福祉関係
- 松田市郎さん (34歳、上森目、農業) ……農業関係
- 市長 寺島利鏡
- 司会 植村英二市秘書広報課長補佐

づくり運動も、そうでしょうね。

市長 その意味で、市民がだれでも気楽に話し合える施設がほしくなる。20周年を記念して福祉総合センターの建設を計画しています。

高山 青年には、金を使わないで健全に過ごせる勤労青年のホームがほしいです。

坂田 まちづくり運動にしても、婦人活動にしても、単位が大きくて活動しにくいのではないですか。小学校校下単位ぐらいのコミュニティづくりが必要だと思います

松田 まちづくり運動の根本は家庭にあります。現在赤ちゃんを母乳で育てる母親はどれだけあるでしょうか。

そんなに急ぐことはないのですからもう一度みんなが家庭を振り返ってみたいですね。

プロ農業は10ヘクター

司会 現状や問題をいろいろお話しいただきましたので、これからのあり方や希望などを語っていただきますよう。まず農業についてはどうでしょう

松田 これからの農業は、根家1戸当たり米作では10haの耕作面積が必要ですし、米作陪農、花など専門的に誇りを持って行うプロ意識がなければやっていけないと思います。

宇野 プロに徹する以上は、より有利な市場開拓が必要でしょうね。

松田 私の考えでは、地元市場を満足させて次の市場へ供給する。地元を大切にすることはじめて成長するのだと思います。これがプロではないでしょうか。

市長 今までは、みんな1ha農家でプロに徹したくても徹しられなかったんです。これからは基盤整備で近代化したのですから大型機械の導入、協業化もできます。しかし、農業で今一番大きな問題は、農地が流動化しないことで、本当に農業をやりたい人に農地が集まらないということですね。

織物は郷土の誇り

司会 農業については、まだまだ大きな問題があるようです。では次に商工業の発展策についてはどうでしょう

坂田 商工会議所と市内の商店とのつながりが薄いですね。今度商工業診断の計画があるそうですが、本当に改善しなければならぬ店が取り残される。もっと連けいを密にする必要があります。

宇野 現在大野市で織られている品物は、世界のどこにもできない織物、ジョーゼットです。この意味では「世界の中の大野」ですが、この事実を知っている市民は案外少ないと思います。市民の郷土産業への理解を願っていますね。

商業では「まだ今のままで、なかなか」という意識の人が多くではないでしょうか。将来への購買力はどうか。人口に対して店舗数はこれでよいかなどの資料を持つことは大切ですね。

高山 青年の大半は大野の織物が世界一の品物だなんて知りませんよ。ほくも知らなかった。もっと地元産業への認識が必要ですね。それには学校教育の中で理解を深めるとか……

市長 大野市は中小企業が多いですね。これからの国際競争力に打ち勝つには、団地化して企業の体質改善をしなければなりません。この計画を今後具体化していきます。

青少年会館がほしい

司会 それでは最後に、青年が喜んで住む、魅力ある大野市になるためにはどうすればよいかの提言をお願いします。

藤井 保育園に関したことで、大野市に児童を考える組織がほしいと思います。保育園と学校とは児童育成の面で層層があります。また幼稚園との間で同じことが言えます。これでは立派な児童、青年の育成ができませんので、学校、幼稚園、保育園が有機的に連けいできる児童研究会がぜひ必要です。

坂田 家庭で児童を育てられても保育園に出ず風潮がありますね。これが

らますますひどくなるような気がするのですが……

藤井 保育園での保育は「家庭が保育に欠く」を要件としますが、この解釈も時代と共に変わるんですね。例えば、近所に子供がいないので社会性が培われない、家が小さい、とか一歩外に出れば交通の危険があるなども、保育に欠ける内容になっています。

市長 藤井さんが言われたとおり、小・中・高等学校の間は教育方針が一本の線を通っています。しかし就学前の施設と学校は、連けいが薄いですね。今後の大きな課題です。

高山 大野市の青年が地区意識をなくしてつどえる、青少年会館がほしいですね。

坂田 青年が大野に喜んで住むようになるには、働きがいのある職場が必要ですし、郷土を正しく認識させる教育を望みます。

宇野 青年が誇りをもって地元職業に就職するようになるには、自分が生産している物が最終に何になるのかわからなければなりません。このことから、大野市に源泉から加工、商品までの一貫した産業が必要です。

藤井 農業祭があるんですから、織維祭もいいですね。

坂田 ステキナドレスをみせていただくと市民の認識も変わるでしょう。

宇野 ですから、生産する工場から販売する商業までを含めた開発センターの設置を望みます。

松田 プロに徹した農業マンになるには、総合的な農事試験場がほしいです。問題を徹底的に究明できることが誇りにつながりますから……

市長 魅力ある大野市への提言がいろいろありましたが、若い人が地元で定着するには大野市適した職種が幾つかあって、これを青年が自由に選択できれば魅力が欠くでしょう。農事試験場はぜひ大野へ誘致したいですね。将来農業、林業で最後に残るのは乾田でしかも耕地面積の大きい、大野市ではないでしょうか。酒米の生産地としても伸びると思います。

司会 本日は貴重なご意見ありがとうございました。





10年後にはこんなまちに

人口の推移を国勢調査でみますと、昭和35年46,271人、昭和40年44,873人、昭和45年42,241人で年々減っています。しかし、将来は交通・通信の発達、企業の誘致、恵まれた自然の活用などで人口は増え、昭和60年には世帯数12,430人口は46,000人になると推定されます。



国道は157、158号線共に4車線になり、現在の県道大野・墨俣線は国道に昇格、西部バイパスも21メートルに拡幅されて上明治から君が代橋取り付けまで延長されるでしょう。

県・市道は拡幅、舗装が進み、主な道路は幅員12メートルになります。

また上堀一稲郷、今井一佐開、中挟一富田大橋、川島一土打、六呂師一橋爪にバイパスができます。さらに農業の近代化の一環として、大野盆地を環状に走る広域営農団地農道が昭和52年までに建設されます。そして、越美線が全線開通になれば、大野市は中京への玄関口ともなります。



10年後の大野市はどのように変わるでしょうか。上のイラストはこれから市が建設を計画しているものを中心に描いたものです。市は昭和48年3月に大野市振興計画を作りましたが、これは昭和60年

をめどとした基本構想と、昭和55年を目標にした基本計画からなっています。その一部を紹介するので、あなたも、もう一度大野市の未来像を描いてみて下さい。

観光

自然に親しむ施設として、国民宿舎を宝慶寺と勝原に建てます。宝慶寺は鉄筋コンクリート2階建て50人収容、勝原は3階建て100人収容のものです。

また遊歩道を平家平一姥ヶ岳一温見峠の5キロメートルにつけます。キャンプ場は平家平、森山高原につくり、「自然と話せるまち」にします。

農林業



土地基盤整備事業を進め、市内総耕作面積の96パーセントに当たる4,008.8ヘクタールを整備します。作物は生産性の高い米づくりを推進する一方、ニンジン、里芋、イチゴ、チュウリップの球根、花卉などの特産品づくりを勧めます。林業では第2次林業構造改善事業を、昭和51年から53年度まで行い、林道の開設、大型機械の導入、モデル林の造成などをします。

福祉



社会福祉総合センターを建設を進めます。鉄筋コンクリート3階建て3,000平方メートルで、老人いこいの室、宿泊施設、浴室、機能回復訓練室、職業指導室などを設けます。また、現在の100人収容の春日、日吉児童館の外に、北部、東部児童館の建設を計画しています。



市街地が大きくなりますので、有終東小学校を建設、有終南小学校は広い敷地がとれる市街地南部へ移転し新築します。また、富田小学校体育館・阪谷・下庄小学校木造校舎も年次計画で改築します。

社会教育施設では、体育館を建設すると共に、青年婦人会館は鉄筋コンクリート3階建てのものを建設します。



ごみ焼却場は昭和51年までに1日90トンの処理能力のある施設を広域行政事務組合で建設します。

また、深刻化する地下水不足に対処するため、市街地には上水道を、農村部には簡易水道を整備する計画です。

都市計画

土地区画整理事業は、北部第2、東部第1、第2、南部第2、第3、西部の6区画総面積132.3ヘクタールが行われ、新用途地域計画に沿った都市づくりが進められます。

児童公園は、新しく北部第1、第2、第3、第4、駅東第1、第2、第3、第4公園を設け、市内では一般公園は亀山公園1園、児童公園は16園になります。

20年のあゆみ

20年の歩みの中には、うれしいこと、悲しいこといろいろなことがありました。

年表とスナップでもう一度振り返ってみましょう。



▲市制を祝う旗行列 (S29)

中津川にできた市営住宅 (S31)



初登庁する
斉藤市長 (S29)

▶初代市長 斉藤重雄氏



▲初めての市立大野保育園での園児たち (S30)



昭和29年

- ▼7月 大野市誕生 大野町・下庄町 乾側村・小山村・上庄村・富田村・阪谷村・五箇村の2町6ヵ村が合併
戸数8,600、人口43,610
- ▼8月 斉藤重雄市長就任
- ▼10・11月 市制祝賀祭を行う

昭和30年

- ▼1月 初の市議会議員選挙執行 当日の有権者24,587人
- ▼7月 常設消防団を設置
- ▼7月 大野保育園開園
- ▼9月 消防本部、消防署、訓練所を設置

昭和31年

- ▼6月 越美北線起工式 有終中学校で農業実験室を設置
- ▼7月 常設消防団を設置
- ▼8月 打波小学校小池分校完成
- ▼11月 市営住宅20戸完成 (中津川、新在家)
- ▼12月 蕨生小学校改築



▲初めての鉄筋校舎下庄小学校校舎完成(S 32)

▶二代目市長に森広治兵衛氏就任(S 33)



▲北米濃地震の爪跡 下打波(S 36)



▲自然の猛威伊勢湾台風
日吉神社付近(S 34)

昭和32年

- ▼5月 上庄小学校講堂完成
- ▼5月 下庄小学校校舎完成
- ▼12月 有終西小学校改築工事着工

昭和33年

- ▼4月 市営農場事業を開始
- ▼5月 竜仙橋完成
- ▼6月 市制5周年の祝賀祭
- ▼8月 二代目市長に森広治兵衛氏就任
- ▼10月 じん焼却場完成
- ▼12月 君ヶ代橋架替竣工
- ▼12月 上庄小学校校舎改築完成

昭和34年

- ▼2月 高松宮賜杯第9回中部日本スキ一大会開催
- ▼8月 台風6号による豪雨 被害総額約3億5,000万円
- ▼9月 駅東土地区画整理事業に着手
- ▼9月 台風15号(伊勢湾台風) 被害額約4億円

昭和35年

- ▼3月 有終西小中学校校舎完成
- ▼4月 義景保育園開設
- ▼12月 越美北線 福井、勝原間開通
- ▼12月 下庄小学校中保分校竣工

昭和36年

- ▼3月 小山小・中学校屋内体操場改築
- ▼7月 五箇公民館完成
- ▼8月 市内の電話自動化
- ▼8月 北米濃地震 打波で震度5
- ▼9月 第二室戸台風 被害額30億円

越美北線福井・勝原間開通
(S 35)





▲阪谷・上庄幼稚園開園（S37）

「38の豪雪。大屋根より高い道を歩く市民（S38）」



▲「38の豪雪、自衛隊が活躍



▲富田小学校の惨状（S40）
▲40・9風水害
▲40・9風水害
▲民家を襲う濁流柿ヶ島で（S40）

昭和37年

- ▼4月 尚徳中学校発足
- ▼4月 阪谷・上庄幼稚園を設置
- ▼5月 市役所庁舎新築工事完成
- ▼7月 初の学校プール完成(有終中)
- ▼7月 森広治兵衛氏市長に再選
- ▼9月 衛生処理場(し尿処理場)完成
- ▼11月 富田・阪谷・勝原の3橋完成

昭和38年

- ▼1月 「38年豪雪」最高積雪306センチメートル、雪害8億3,000万円
- ▼4月 春日保育所開設
- ▼4月 乾側幼稚園開園
- ▼5月 竜仙橋完成
- ▼5月 奥越電源開発始まる
- ▼12月 尚徳中学校校舎完成
- ▼12月 富田公民館新築

昭和39年

- ▼4月 富田幼稚園開園
- ▼5月 土井利忠公銅像建立
- ▼7月 市制10周年記念行事実施
- ▼10月 南部土地区画整理事業に着手
- ▼11月 打波川流域災害復旧工事完成
- ▼12月 佐開橋完成

昭和40年

- ▼3月 市民会館建設に着手
- ▼4月 大野工業高校開校
- ▼4月 小山幼稚園開園
- ▼8月 全日本ソフトボール選手権大会開催
- ▼9月 「40.9風水害」被害額44億円、死者2人、罹災世帯1,748
- ▼11月 あかね保育園開設

昭和41年

- ▼1・2月 高松宮賜杯第16回中日スキー大会開催
- ▼3月 大野市農業協同組合発足
- ▼3月 大野公民館完成
- ▼6月 市民会館落成
- ▼7月 じん芥焼却場完成
- ▼8月 第4代市長に寺島利鏡氏就任
- ▼8月 富田小学校校舎落成
- ▼9月 佐開・木落農地復旧工事始まる
- ▼9月 駅前土地区画整理事業完成
- ▼10月 新町名を実施
- ▼12月 上庄公民館落成



▲寺島利鏡市長初登庁 (S41)



連日熱戦が展開された福井国体の相撲競技 (S43)



◀若生子区解散式の後、別れを惜しむ区民の肩踊り (S44)



▲大野市・西谷村合併で援手する寺島市長と山本村長 (S45)



県立奥越高原牧場開場 (S46)



- ▼ 5月 大野高校校舎改築完成
- ▼ 7月 有終中学校グラウンドに夜間照明施設
- ▼ 8月 上・下若生子なくなる
- ▼ 9月 大野市・西谷村合併協議会設立
- ▼ 11月 初の農業祭開く
- ▼ 11月 春日児童館開館

昭和42年

- ▼ 6月 真名川ダム建設始まる
- ▼ 7月 市営相撲場完成
- ▼ 8月 全国高校相撲選手権大会開催
- ▼ 9月 財政再建準用団体に指定される。
- ▼ 9月 大野城建設工事に着工
- ▼ 10月 市会議員の定数を減少する条例成立
- ▼ 11月 大野市総合文化祭開催

昭和43年

- ▼ 8月 上庄保育所開設
- ▼ 8月 越前大野城・郷土歴史館竣工
- ▼ 8月 第1回城まつり開催

- ▼ 10月 第23回国民体育大会、当市では相撲・ソフトボール・山岳競技開催
- ▼ 10月 羽生和永選手メキシコオリンピックに出場
- ▼ 10月 荒島保育所開設

昭和44年

- ▼ 1月 六呂師へき地保育所開設
- ▼ 3月 若生子小学校廃校

昭和45年

- ▼ 3月 下庄小学校講堂改築工事完成
- ▼ 3月 宝慶寺小学校廃校
- ▼ 5・6月 カドミウム公害問題発生
- ▼ 7月 西谷村を編入合併
- ▼ 8月 寺島利鏡市長再選

昭和46年

- ▼ 2月 市議選執行(定数26人)
- ▼ 2月 大野市森林組合発足
- ▼ 4月 開成、陽明中学校発足
- ▼ 4月 北部土地区画整理事業に着手
- ▼ 5月 県立奥越高原牧場開場
- ▼ 6月 日吉児童館開設
- ▼ 7月 市営葬斎場完成
- ▼ 10月 老人医療費助成制度スタート



▲越美北線勝原・九頭竜湖間開通 (S 47)



▲蕨生・塚原県営給農地開発事業の完成式 (S 47)



▲大野地区消防組合発足のカーパレード (S 48)

▼第24回中日スキー大会の開会式 (S 49)



▼北部保育園が開園 (S 49)

昭和47年

- ▼ 3月 新用途地域決定
- ▼ 4月 南部土地区画整理事業完成
- ▼ 6月 環境保全都市を宣言
- ▼ 7月 大野・勝山地区広域市町村圏事務組合発足
- ▼ 10月 蕨生・塚原県営総合農地開発事業完成
- ▼ 11月 国道158号線バイパス一部開通
- ▼ 11月 上水道の基本計画できる
- ▼ 12月 越美北線勝原・九頭竜湖間開通

昭和48年

- ▼ 3月 打波小学校廃校
- ▼ 3月 大野市振興計画まとまる
- ▼ 3月 財政再建完了
- ▼ 4月 市土地開発公社設立
- ▼ 5月 駅東第二土地区画整理事業認可
- ▼ 7月 大野地区消防組合発足
- ▼ 11月 地下水対策審議会設置
- ▼ 11月 重要文化財「橋本家」解体移建
- ▼ 12月 第1次林業構造改善事業完了
- ▼ 12月 林道黒谷・河内線完成

昭和49年

- ▼ 2月 高松宮賜杯第24回中部日本スキー大会開催
- ▼ 4月 北部保育園開設
- ▼ 4月 陽明中学校校体育館完成

発行
 福井県大野市天神町1番1号
大野市役所
 電話(代) 6-1111
 郵便番号 912
 印刷 松浦印刷所